

平和の灯

題字 津留崎尚
 戦没者を慰霊し
 平和を守る会発行
 〒849-0112
 佐賀県三養基郡みやき町
 大字江口7561
 塩川総合企画(株)内
 発行責任者 塩川正隆
 電話 0942-89-5135
 F A X 89-9281
 e-mail:senbo-peace@senbotsusya.com
 http://www.senbotsusya.com

新たな遺体発見

今回の発掘作業の概要

新たな遺体発見

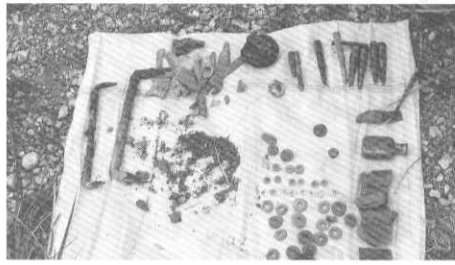
本年度第3回目となり、また「沖縄遺体収容ツアール」を、1月19日から21日の日程で行いました。参加者は総勢45名となり、年々参加される方が増えています。

発掘を行った場所は、沖縄県南城市大里城址で、昨年発掘を行った場所の隣接地：A、重砲兵第7連隊本部壕：B、東側斜面の陣地跡と思われる場所：Cの計3箇所にて行いました。

Aは重砲兵第7連隊戦術指揮所(観測所)と本部壕をつなぐ散兵壕(移動のための通路)でこの場所からは小銃の弾薬(弾丸が発射済み)、小銃の弾薬、葉ビン、ブーツの中敷など当時の遺留品が多数発見されました。今回の発掘に参加いただいた島袋全裕氏(沖縄戦当時この部隊の通信兵・この部隊の戦友会沖縄支部)



▲Aでの出土品



▲Bでの出土品



▲Cでの出土品

代表・那覇市在住)によると、「1945年5月末に連合国軍の進軍に伴い、この場所が戦場が行われ占拠されました。本部壕に対し馬乗り攻撃(地形的に、上部より下部に向かって手榴弾を落とし込み、油を流し込み、火をつけたりすること)を受けた」との証言もあり、多数の弾薬が発見されています。

電気探査の概要

電気探査は2箇所行いました。1箇所目は糸満市新垣地区で慰霊碑「浄魂の塔」がある場所。この場所は当時第24師団(山部隊)の歩兵89連隊、工兵第24連隊、の残存部隊が最後の拠点として布陣し、連合国軍を迎撃したが1945年6月17日この地にて全滅した(1)とされる場所です。地元の方の証言によると第24師団防疫給水部(山1、207)の陣地壕として作られたものであるとのことでした。2箇所目は豊見城市の海軍司令部壕付近で行いました。結果については詳細をご覧ください。(1)沖縄の慰霊塔、碑(沖縄出版)より抜粋

Cは大きな岩の下にある空洞を利用し構築された陣地跡のようで岩沿いに散兵壕が掘られ、がけ側には石積みされています。岩下の空洞を掘り進めたところ多数の歯や骨指輪が発見され、発見された場所が離れていることから、少なくとも2体以上のご遺体だと判断されました。同時に発見した軍装備品などより部隊名

区の慰霊碑(島添之塔)で行いました。今回の慰霊祭には当会の調査で判明した、昨年発見された外山の印鑑の持ち主である鹿兒島出身の外山芳隆中尉(当時少尉)の甥にあたる外山政輝氏ご夫婦ならびにご親族の方ほか2名、文房具と見られる遺留品の持ち主である大阪府出身の濱田昌三中尉(当時少尉)実弟の濱田敏彦氏ご夫婦、島袋全裕氏とゆかりのある方が出席され、当会の坂本副理事長より説教がなされ参加者全員でご冥福を祈りました。その後今回発掘したご遺体は沖縄県奉養会に仮安置いたしました。

今後の活動について

昨年発掘されたご遺体(20体以上)ならびに本年発見された(2体)と思われるご遺体についても引き続き遺族探しを行ってまいります。遺留品より身元の確定ができています。国に対してDNA鑑定を行うよう働きかけを行ってまいります。

この地区の発掘は未だできていない場所も残っていることから今後も発掘作業及び、電気探査による埋没壕の調査を引き続き行なってまいります。

大里城址付近の沖縄戦史

この地域には、沖縄戦当時3つの部隊、重砲兵第7連隊本部(球4152)、船舶工兵23連隊(球16741)、独立混成第15連隊第6中隊(球7836)が配置されていた。球4152部隊はこの

部隊より2中隊は南太平洋に転戦していたため、沖縄県に追加召集をかけた連隊本部と3中隊の編成となっていました。この大里城址には連隊本部まで進行してきて戦場跡見取り図の①の戦術指揮所をおそらく艦砲の直撃を受け大破しここで一時に16名の戦死者がいました。この中に濱田少尉、外山少尉が含まれていた模様です。この陣地では白兵戦が行われ写真の②の部分で占領された山頂部から馬乗り攻撃を受け見取り図の写真では手前になる方へ敗走すると機関銃にて狙撃された状況となり同年5月の末にはこの陣地を明け渡し与那原、知念半島を経由し摩文仁へ敗走しました。

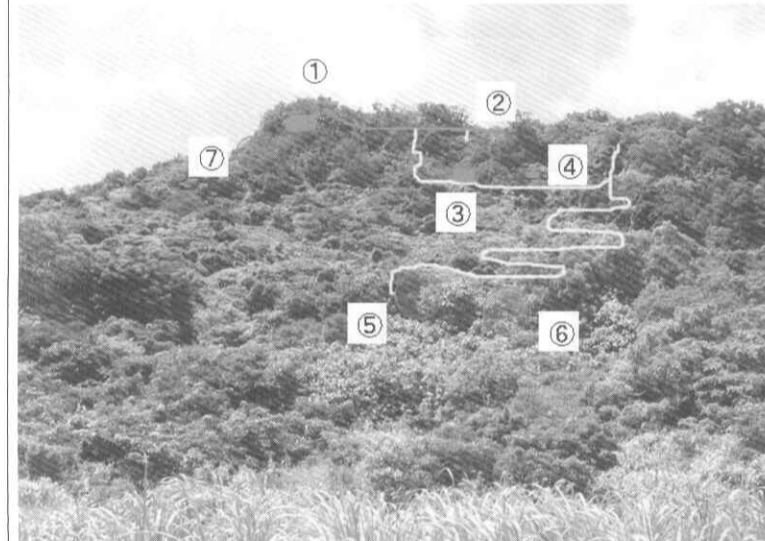
戦隊は海上特攻艇乗員の部隊で、250キロ爆雷を装着したペニヤ板で作られたモーターボートで停泊中の敵艦船に対し肉薄攻撃を加えその後帰還することを目的とする部隊です。しかし爆雷を敵艦船に当て逃げられることは可能でなく、実態は特攻攻撃と同じでした。球16741部隊も海上挺身戦隊を送り出しその後部隊陣地が艦砲にて破壊されたことから、近隣に陣地があった球4152本部部隊に合流することとなりました。

左の写真①の場所にて



左より当会副理事長坂木茂太郎氏、濱田敏彦氏、国吉勇氏、外山政輝氏と親族の方3名、島袋全裕氏

大里城址近辺、沖縄戦遺跡見取り図



①重砲兵第7連隊本部戦術指令所(観測所)、②①につながる連絡道(散兵壕)、③重砲兵第7連隊本部壕、④重砲兵第7連隊本部無線隊壕(内部)、⑤重砲兵第7連隊本部医務室跡、⑥重砲兵第7連隊本部炊事場跡(現在この地域の沖縄戦没者慰霊の碑、島添之塔)、⑦陣地跡



① 重砲兵第7連隊本部壕入口
 ② 重砲兵第7連隊本部戦術指令所
 ③ 重砲兵第7連隊本部無線隊壕(内部)
 ④ 無線隊壕の内部
 ⑤ 医務室跡付近より首里方面を望む
 ⑥ 島添之塔
 ⑦ 陣地跡

球16741部隊は1944年和歌山にて編成、大里城址より海側に配置され海上挺身戦隊の支援を行いました。海上挺身隊は第二次世界大戦で三百万人の国民を犠牲にし、またアジア諸国への侵略で夥しい被害を与えたことへの反省に立ち、主権在民、基本的人権を何より平和主義を国家理念の中心として出発した。しかしアジア諸国への侵略を「自虐史観」と切り捨て安倍氏は戦後の規範そのものを「大胆に」見直し、そして新たな国創りのために「憲法改正」が必要であるといっている。

昨年、教育基本法を変え、年明けに防衛庁を「防衛省」昇格させ、今国会で「国民投票法」の成立を目指すといっている。それは、そればかりか夏の参院選挙の争点に「憲法改正」を挙げると安倍氏は言う。

「憲法を頂点とした戦後の枠組みを見直し、再び『国の同一律』(愛国心)を中心とした国民教育を行い『新たな大東亜共栄圏』という『新機軸』へ大きく軸足を移そうとしているように思えてならないのだが、『美しい国、日本』の正体はどうもその辺にありそうである。(Y.S)

灯

「美しい国、日本」の正体
 安倍総理の「第一六六回国会施政方針演説」は我々庶民にはよく訳の分からない横文字交じりのものだった。「戦後レジーム」「カントリー・アジェンダ」「アジャゲートウェイ」「イノベーション」等々。美辞麗句とは言わないまでもちよっと「しゃれた言い回し」の裏には人を欺くための計算されたレトリックが隠れていることは疑ってかかる方がよい。「戦後レジーム」の大胆な見直し、「新しい日本のカントリー・アジェンダ」これらは「美しい国、日本」の創造、実現に必要なことは言う。しかもいづれ「憲法の見直し・改正」という文脈には含まれていない。このようにいづれの横文字も前後の文脈との関わりで見るととても重要な意味合いで使われている。